

【自己診断シート】

生徒たちが普段の生活から考えやすい内容です。身の回りの状況に目を向け、日本経済の大きさや豊かさを認識させます。しかし、そんな経済にも好不調の波があり、それを自分なりに見極める力をつけるキッカケとしたいと考えます。経済用語なども、比較的ニュースなどで耳にするものを用いています。

Aの解説：

私たちはたくさんの商品やサービスがある環境で暮らしていることを、あらためて認識させます。教室の中にもたくさんの商品やサービスがあり、「原料をつくる人、商品をつくる人、運ぶ人、売る人」等々、たくさんの人が関わっていることを話し、生徒たちからは見えないところでも経済活動が動いていることを意識させるのが効果的です。

Bの解説：

景気という観点で身の回りの状況に目を向け、「現在の景気に対する意見を持つ」とする。「景気を判断しようとする」キッカケとします。設問は「どちらが正しいか」ではなく、「どんな要因から、どちらと感じているか」をハッキリさせるのが目的です。

Cの解説：

インパクト性あるワードで、用語への意識も引き起こします。

設問2の解答と解説：

GDP-国内総生産、GNP-国民総生産、インフレ-物価上昇、デフレ-物価下落

比較的、生徒たちもニュースなどで触れる機会が多いであろう語句を問い、記憶の淵にある経済関連用語を、呼び起こしてから授業へ入ります。

【確認テスト】

[解答] 1 : B 2 : A 3 : B

[解説]

1 : GDP は「Gross Domestic Product」の略で、日本語では「国内総生産」。国内で新たに生み出されたモノやサービスの合計額のことです。日本企業のものであっても海外での売上は含まず、外国の会社でも日本国内での売り上げなら含みます。海外における日本企業の生産額も含むのは GNP (Gross National Product) 「国民総生産」です。

2 : 「景気が良い」ときは、モノの売り買いが活発で、世の中にお金も多く出回ります。モノが売れると会社がもうかるので、そこで働く人たちのお給料が増え、お金を使う機会も増えます。ただ、モノが売れ続けることで、モノの価格が上がってくるという傾向があります。

3 : 簡単に言えば、需要はモノを買う側、供給はモノを売る側ですので、需要（買う数）が供給（売る数）より多ければモノが足りません。逆に、供給が需要より多ければ、モノは売れ残ります。売れ残る状況ではモノを売ってしまいたいので、価格は下がる傾向にあります。Cの場合はモノの価格が安い状況にあり、つまり供給が多い（売る側が多い）状況にあるので、モノはそもそも売れる価格まで安くなっていると考えられます。